



(参考仮訳)

プレスリリース No. 10/10  
即時解禁  
2010年1月20日

国際通貨基金 (IMF)  
米国・ワシントン DC

### ストロスカーン IMF 専務理事、世界経済の転換はアジア主導で

国際通貨基金 (IMF) のドミニク・ストロスカーン専務理事は、香港で開催されたアジア金融フォーラムで講演を行った。この中で同専務理事は、アジアは世界経済危機からの回復を先導していると指摘した。さらに、アジア経済は今後も力強い成長が見込まれることから、同地域がこれまで以上に重要な役割を担うことが期待されるとした。また、ストロスカーン専務理事は「危機後の世界経済の構築において、今日これまで以上にアジアの貢献が求められて」おり、「おそらくアジアは今、転換期という歴史的な時を迎えている」と述べた。

ストロスカーン専務理事は、アジア経済が引き続き力強く成長するためには、世界の他の地域と同様に、危機後の経済における新たな課題に適応することが不可欠だと指摘した。同専務理事は、既に多くのアジア諸国が「持続的な成長を実現するための新たなモデルの主たる要素の特定に向け、動きを本格化させている」と述べた。これには、輸出拡大のペースには限りがあり、国内・地域内の需要がアジアの成長を支える上でこれまで以上に重要となるとの理解も含まれる。

更に、ストロスカーン専務理事は「これはアジアが内向きになるべきだという意味ではない」ことを強調し、「むしろこれは、内需の再活性化及び地域内貿易の拡大を意味している。このようなアジアの成長モデルの再調整により、アジア地域以外の需要への依存が緩和されることから、これは同地域の利益にかなうものであり世界の利益となるものだ」と述べた。

ストロスカーン氏は、世界が直面する経済上の主たる課題との関連でアジアについて言及し、「2010年は重要な年」と位置づけ、「各国がより長期的な展望に目を向けることが出来る最初の年である」と述べた。その上で、同氏は、より強固で持続的な世界経済を構築するには、特に以下に挙げる三つの政策が不可欠だとした。

- 規制と監督の強化・改善をはじめとする、金融部門の改革に向けたモメンタムを維持する。ストロスカーン氏は「我々は従来のビジネススタイルへ逆戻りしてはならない」と述べた。
- 民需の回復につながる新たな成長の原動力を特定する。これに関しストロスカーン氏は、生産性の向上につながるとして、労働・製品市場の改革の必要性に言及し、「一連の再構築の作業において、『グリーン』経済の拡大に向けた取り組みも有益だろう」と述べた。
- 国際的な政策協調の強化も肝要である。ストロスカーン専務理事は、G20の「相互評価の枠組み」は、強固で安定した成長の持続性の確保に向け、世界の大国が確実に相互に責任を持つためのプロセスであり、正しい方向への重要な一歩だと評した。同専務理事は「IMFはこの多国間協調への革新的アプローチに対し、分析面で支援を行って」おり、「私はこの新規枠組みが、2010年そしてそれ以降の世界経済の転換において、重要な役割を果たし得ると確信している」と述べた。

ストロスカーン専務理事は、これまで2年間でIMFは融資制度改革、コンディショナリティーの簡素化及びIMFガバナンスの改善を実施、危機対応の迅速化に向け大きく変化したと述べた。同専務理事は「我々の責務及び権限の抜本的改革を検討している。なかでも、国特有のリスクのみならず、特に金融部門におけるシステム上のリスク、さらには現代の危機への対応に必要な保険を提供する、融資制度の開発を重要課題とする」と述べるなど、2010年IMFは改革を推し進めると明言した。

さらに同専務理事は、アジアのクォータ（出資割当額）及び議決権が、世界経済でのアジアの規模をこれまで以上に反映したものとなるよう作業が進められており、IMFにおけるアジアの役割も増していると述べた。

ストロスカーン専務理事は「アジアの経済力が増すにつれ、世界経済のパフォーマンスの安定と向上を推進する上でのアジアの役割も増している」と述べた。「国際的な政策議論の場でのアジアの役割も増しており、私はアジアの発想・経験から世界が学ぶことは多いと考えている。アジアから非常に多くを我々全てが学ぶことができるのだ」。

同専務理事は、こうした背景の下、アジア経済のダイナミズムに関するハイレベル会議を2010年7月にソウルで開催するべく、IMFが韓国政府と共に準備を進めていることを明らかにした。